

絶対◆服従

神羅遊戯

DOJIN
R18
成人向け

蠢動の場

かつて、数多の種族が
共に生きていた神話の時代
世界を滅ぼさんとする
巨大な邪悪が現れ、すべてが
焼き尽くされようとしたその時

大切なものを守るため
数え切れないほどの
英雄たちは力を合わせ
ついに邪悪を打ち倒し
世界を守り抜いた……

そして、
時は流れた今なお
この伝説は
語り継がれている

だが――
この物語は、
まだ終わっては
いなかった……

絶対◆服従

神羅遊戯

蠢動の場

神魔界

アスタロト様だ！

今日も
美しいです！

おはようございます、
アスタロト様！

—アスタロト—

噂どおりだ…

ふふっ、
みんなおはよう？

こんな街中を堂々と
歩き回るとは、
ずいぶん自由奔放な
女だ…

アスタロト

彼女は神魔界を統べる
「神魔三巨頭」の筆頭
『炎魔王』の異名を持つ者。

そして神魔界の王、
「神魔王」と呼ばれる者の
妃の一人でもある。

かつて、
世界を滅ぼそうとした
死神軍と最前線で戦い抜いた
異界の英雄。

——そんな彼女を、
今、かつての邪悪が静かに
見つめていた。



自分から人の
気配のない
場所へ来るとは…
運がいい

—さて、そろそろ
出てきてくれるかしら？
ストーカーさん？



ククク……
さすがは『炎魔王』の
名を冠するだけはあるな。



ふふっ。
街にいる時から、
ずっと私を
つけていたでしょう？

最初から
気付いていたわ。
もう隠れていないで
出てきたら？

—ラード—
太古の昔、
村々を荒らしていた
魔物





光栄に思え。



リード…？
とっくに絶滅したと
思っていたけれど…

それで？
私に何の用かしら？



ふふふ…
そんな命知らずな
戯言を吐くとは

お前たちが
どうして滅びたのか…
ようやく分かった
気がするわ



貴様の強大な
魔力……



そして、
その艶めかしい肉体



その身に
俺の種を宿す
栄誉を与えてやろう。

記録を書き換えないと
いけないわね

今日こそがー
「ラード」という種族が
滅びた日だった、とね

真・月禍颯塵





ふう…
久しぶりに
本気を出したわ



さて、そろそろ
帰りましょうか





う……
ううん……
ここは……？



ククッ……
ようやく目を
覚ましたか。

な、何だこれは！？

ザッ



くっ……貴様、
一体どうやって……！？

何だ……？
全然力が入らない……



あれを喰らっておきながら
その余裕の顔か。

これなら貴様にも
分かるだろう。



そ…その
魔力は…?!



ククク……そうだ……。
貴様がかつて戦った死神軍……
その頂点に君臨する存在――
「邪神帝シン・ラ・メルタ・トロス」だ……

そんな……馬鹿な！
お前は確かに勇者たちに
討たれたはず……！！



ああ……。
あの忌々しい勇者どもは、
確かに俺の心臓を貫いた。

だが、存在が完全に消え去る寸前……
俺は己の魂の一部を切り離し……
時空の狭間へと潜ませた……



そして、この時を
待ち続けた……

はあ？！
そこまでやられたんなら、
大人しく隠れてれば
よかったでしょうが！
なんでまたノコノコ
出てきたのよ！

ククク…それは
決まっている…

な、何よ……
近寄るな……

貴様らに復讐を
果たすためだあつ！

ホヨ

ホヨ

ホヨ

!?

何してるの!?!
そこは貴様なんかが
触れていい
場所じゃないわ!!

ポッ

残念だが…今すぐ復讐を
果たしたいのは山々だが

だが今の俺の力では…
完全に復活するには、
あまりにも弱すぎるのだ…

ムニッ

おい、
無視するな…!!

そこで方法を
探していたところ……
強い欲望に満ちたこの
肉体を見つけ、
我が宿主としたのだ…

やめなさい!
私の胸に触れていいのは、
ベリアル様だけなんだから!

「雌を我がものにしたい」
という欲望を…

そして、この肉体の
欲望を利用し…
我が力を取り戻す
術を思いついた



この肉体が抱える
欲望を貴様へと向け…
新たな器を貴様の
中に宿らせる―それが目的だ！

エイエイイン

ドゥー

そんな馬鹿げた話…
私が黙って従うとでも
思ってるの!?
今のお前の力が
大したことないくらい、
とっくに見抜いてるわ!

少し時間が経てば、
私の力もすぐに戻るわ!
それに、私がいなくなれば、
みんなが必ず助けに
来るわ!

確かに貴様の言う通り、
今の俺の力では…
貴様一人すら思いの
ままにはできん…
この空間を維持できるのも、
せいぜい三日が限界だ…
それに、この肉体を使って
活動できる時間も、
間もなく尽きる…

残念だが…
ここは俺が身を
潜めていた時空の狭間…
貴様らの世界とは時間の
流れが異なる場所だ…
この場所での一日は、
外ではわずか
一分ほどに過ぎん

だからこそ、
残る魔力のすべてを使い
貴様に特別な
術を施しておいた

貴様の身に刻んだ術式は、
条件を満たすたびに
効力を発揮し、
そのたびに俺の魔力を
増幅させるように

もつとも…
貴様にも希望が
ないわけではない

三日間その試練を
乗り越えられるのならな…
クククッ

次に会う時は……
親子という関係に
なっているだろうな
では、せいぜい
愉しむがいい

ふざけるな！
次なんてない！
ここがお前の最期よ！

ブブヒッ！？
な……何だここは！？

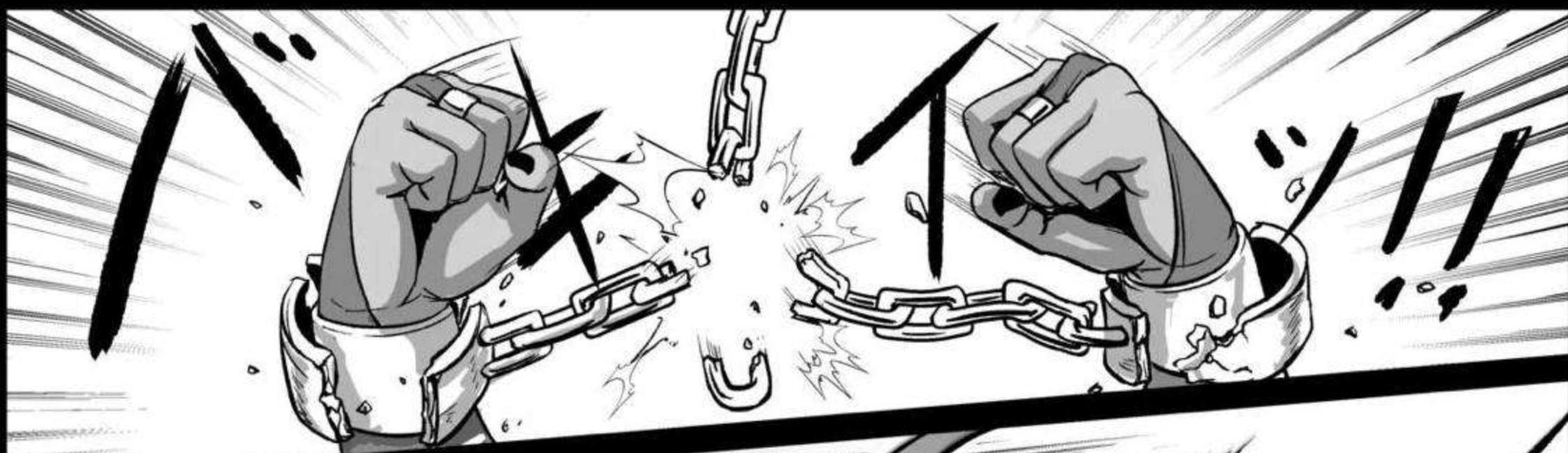
ブオオオツ！！

ア……アスタロト！？
む……胸！？

…この豚、何も
分かってないのね
…よし、さっきより
魔力が戻ってきた…！

この程度まで
れば………！

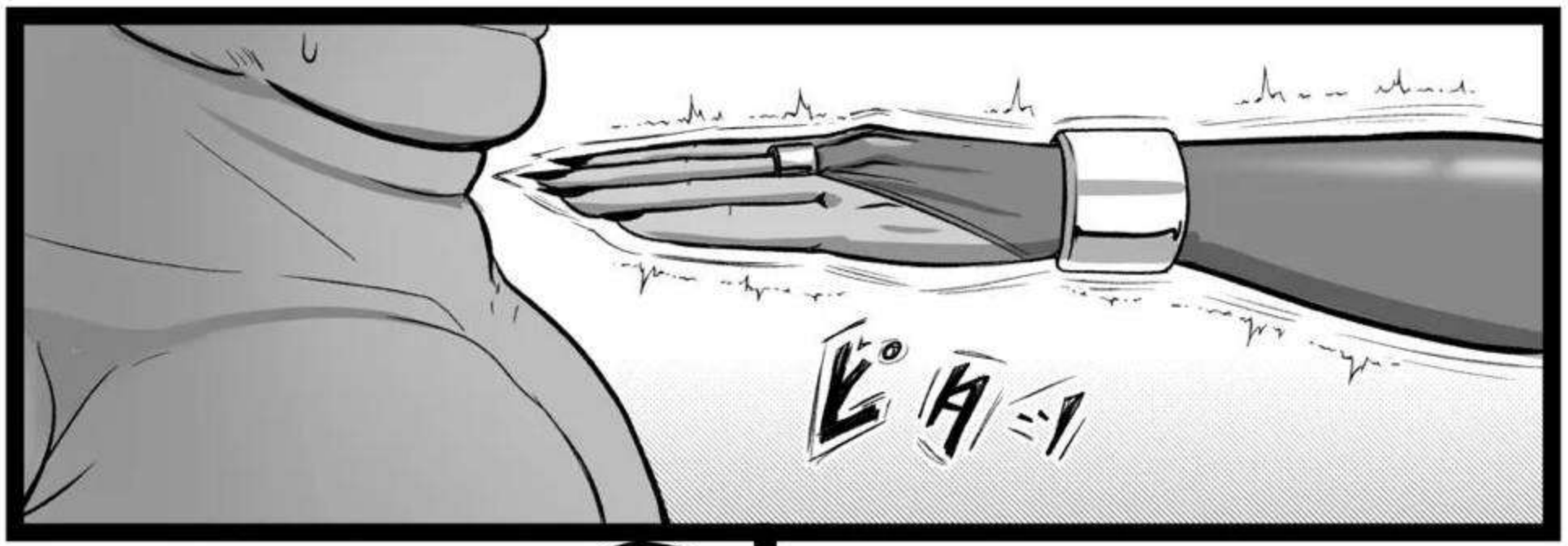




ふん！悪いけど、
あんたにはここで
死んでもらうわ！



ブブヒッ！？
な何だ！？
ややめろおっ！

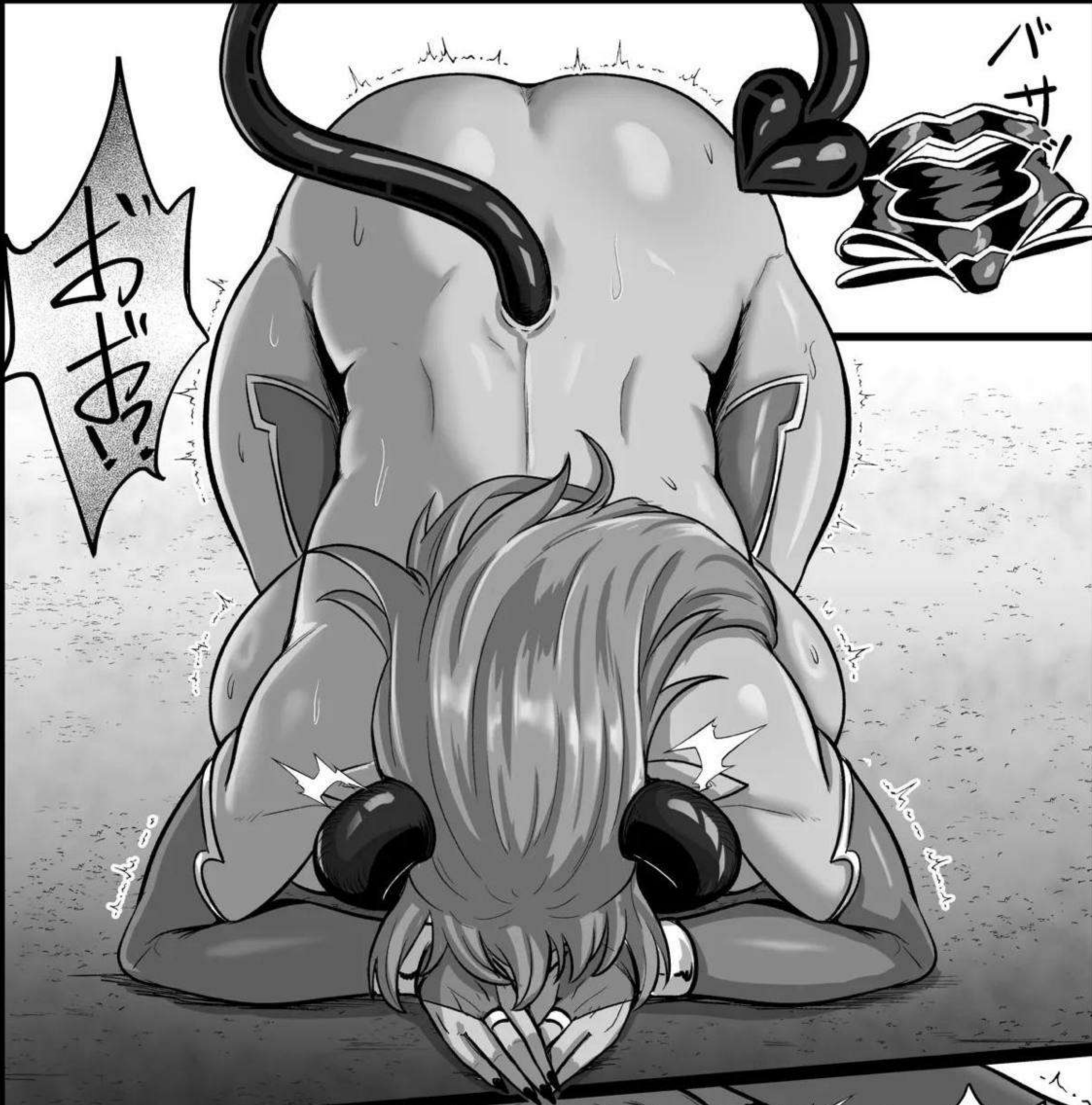


そ…それなら、
俺の前で裸になって
土下座しろ！

はあ！？
貴様
何を言っ—

なっ…動けない！？
貴様…何をした！？

ブ…ブヒツ…？
ま…まさか、
本当だったのか…？



ブ：ブヒッ！
本当だ：：
本当だった！

!!?

どうして…
私がこんな奴の
命令に…！！

ブヒヒッ！
気を失っていた時、
頭の中で声が
聞こえたんだ

イル

ブル

目を覚ました時、
目の前にいる雌は、
しばらくの間俺の
命令に絶対服従する…
ってな

そして—
「永遠に従わせたければ…
この場所にいる間に、
最後まで犯せ……！」

そ…そんな
馬鹿な…！？

アッ—

ブヒヒヒ…
ほら顔を上げろ





お前を完全に
俺のものに
するための、
このちんちん様に
挨拶しろ



な……何よ、
この巨大で
凶悪なものは……？

ブヒッーご主人様になる
ちんちんを見て、
見惚れちゃったのか？



だ……黙れ！
こんな汚らわしいものを
私の前に突きつけるなんて
このクズ野郎……！

そんな綺麗な口で、
そんな乱暴な言葉を
使っちゃいけないな……

少し礼儀を教えてやる
必要がありそうだな



俺のちんこに
キスしろ。



ブヒッ…
舌まで使って
デープキス
するとは…

チル

チル

おっと…♡

くっ…
体が勝手に…!

イル

グル

イル



ギン

ブヒッ!
ここまで綺麗に
なるとはな
どれだけ美味しく
吸い込んだ

ギン

ギン

はあ…はあ…
匂いで頭が
くらくらする…。



そうだ…
美味しい飴玉を口の
中で転がすように…

コロ

そんなに気に
入ったなら、
皮の中までじっくり
味わってみろ



皮の中のちんかす
を舌でこそぎ取れ…
おおっ…♡

ペロ

うっ…
舌がひりひりする…

おい、
何を休んでる

ポッ

ブヒッー
そんなに夢中で
しゃぶっておきながら、
そんな怖い顔をするとは…
素直じゃないなあ(笑)

龟头だけじゃなく
根元までしっかり
味わえ！

くっくっ…

グ

おおっ
来る、来るぞ…
ブヒッー！！

上の口は味わった
ことだしー今度は
下の口を味わう番だな

貴様…
必ず苦しみ抜いて
殺してやる……!!

さて…炎魔王様の
おまんこはどんな
味がするのかな？
ほらご主人様によく
見えるように、
おまんこを広げて見せろ

ブヒヒッー
ならその前にせいせい…
この美味そうなお
まんこを存分に
味わわせてもらうとするか

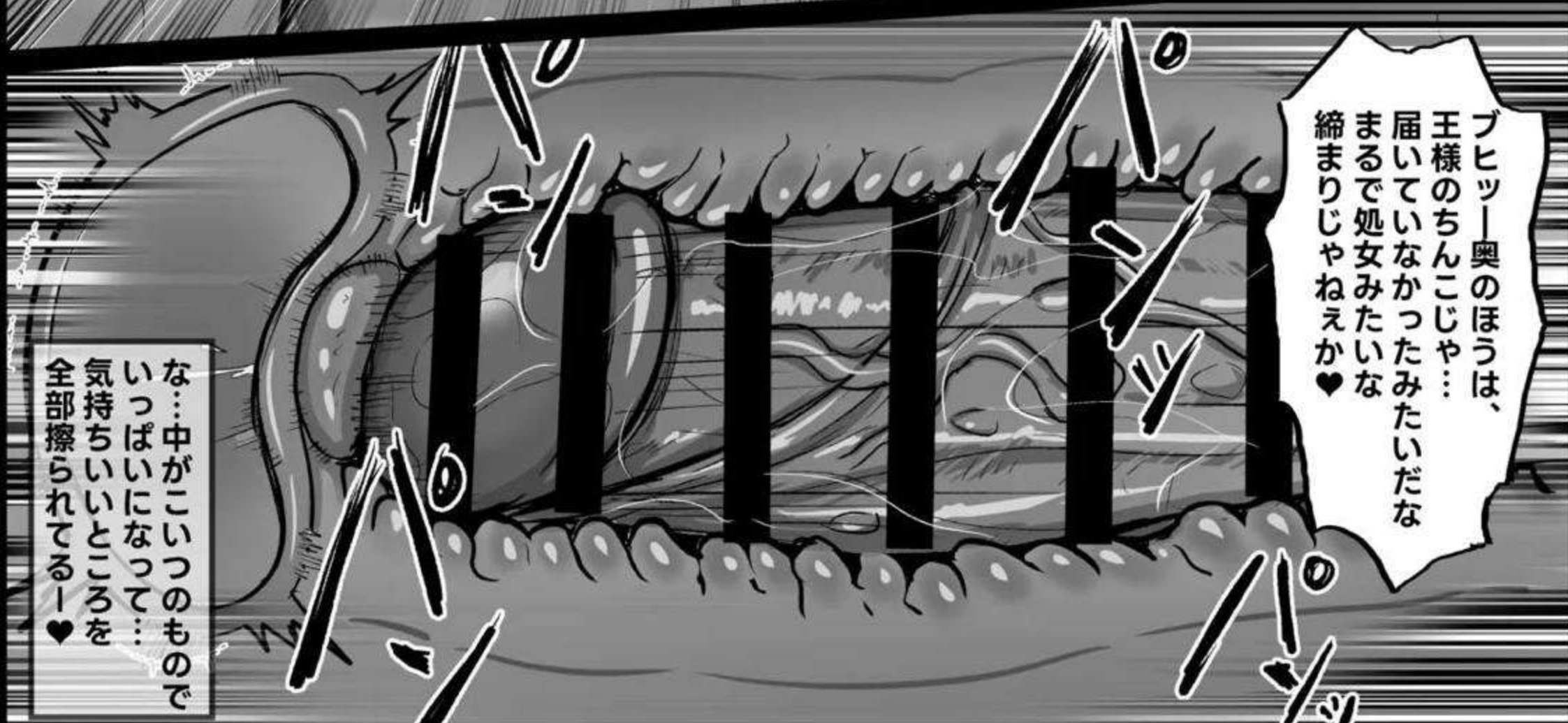
子どもを産んだわりには、
ずいぶん締まりが
よさそうじゃないか

王様にはあまり
抱いてもらえなかった
みたいだな？
ブヒヒヒ…

この下種が…
好き勝手
ほざきやがって!



おおっー優しく、
それでいてー
貪るようにちんこへ
絡みついてきやがる…!!



ブヒッー奥のほうは、
王様のちんこじゃ…
届いていなかったみたいだな
まるで処女みたいなの
締めりじゃねえか♡

な…中がこいつのもので
いっぱいになって…
気持ちいいところを
全部擦られてるー♡





まさか俺が、
こんなに早く
イっちゃうとは…
まったく…
極上のおまんこだな

残り三日間…
休む暇もなく
突いてやる

お……おっ…
こ、これを…
三日間ずっと…?

二日目



おおっ！♥
捕まっちゃった
(笑)



ほらほら、
好きなちんこだろ…?



ブヒヒッー
今日もたっぷり
ねっとり遊ぼうぜ

昨日あれだけ
出したのに…
今日もこんなに…



このクソ野郎…
本当に…!!



それにしても、
昨日から、
体がおかしい…

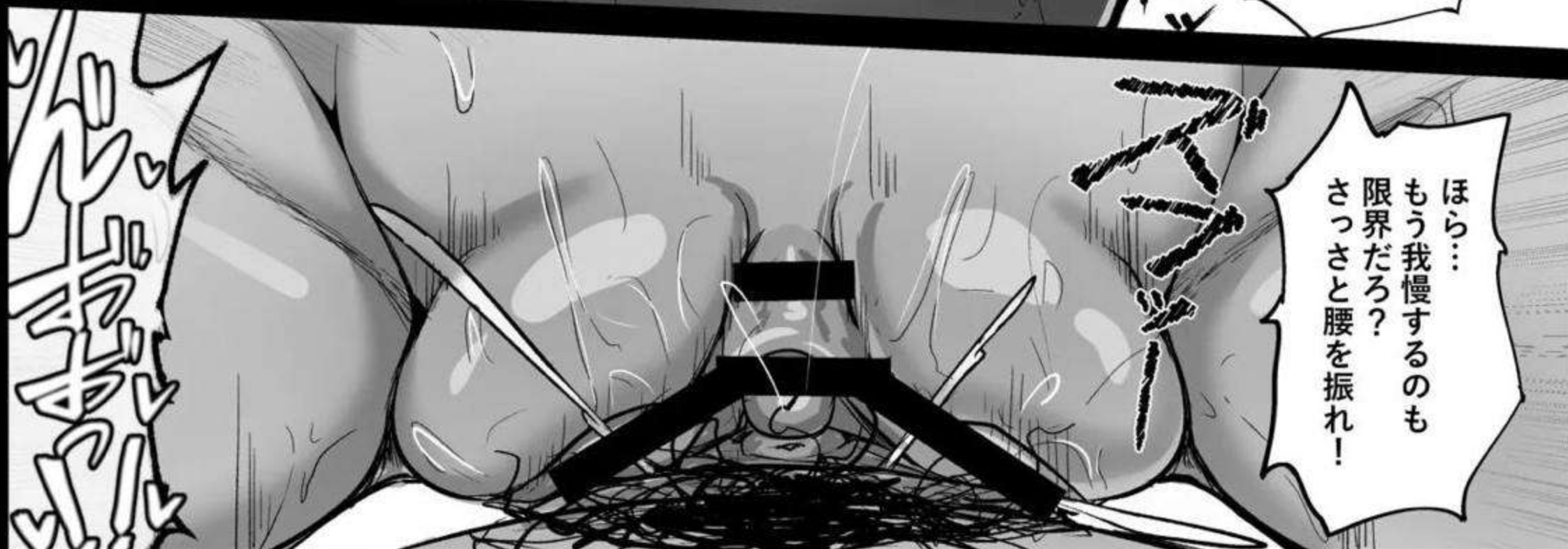


ククク……
まんこがうずいて
仕方ないって様子だな
子宮に注ぎ込んだ
精液の効果がそろそろ
出始めたようだな

それが……
くうっ……
どういう
意味よ……

俺の体から分泌される
体液は、強力な
媚薬みたいなものでな
中でも精液は、
飛び抜けて
効き目がいいんだ……

なっ……!?



ほら……
もう我慢するのも
限界だろ？
さっさと腰を振れ!



おおっ……そんなに
腰を振るなんて……
そんなに俺のちんこが
気持ちいいのか?

ち……違っ……
これは、お前に
命令されて……!

おっ……だめっ……
このちんこ、おまんこの
奥まで擦れて……
気持ちよすぎる……!



ああんっ!?!
誰がちんこに狂った
サキュバスみたいーにー
そんなデカい乳を揺らして
腰を振れなんて
命令したんだよ!!



だ…だめっ…
何度イっても
体が勝手に動いて…!!
この下種のちんこしか
考えられない…!!

ブヒヒッー
まったく飽きない
穴だな

ほら、大好きなちんこを
たっぷり味わいながら
イッちまえええっ！

あと…あと
一日だけ耐えれば…

こんなに突いても、
まだ俺のちんこを
締めつけてきやがる！

はあ

ん



今日で三日目…
今日さえ耐えきれば、
全部終わる…！

ほら、さっさと
私のおまんこに
お前のその
ちんこを突っ込め

ブヒッ—もういい
終わりにしよう
俺の考え違いだったようだ。

……何？

たった三日でも
堕ちるかと思
っていたが—

そ…そんな…
おまんこが…
こんなにも
寂しいなんて…

最後の日になっても、
その様子はなさそうだな
お前自身が望むように
なれば話は別だがな

早く…早くちんちんを…
おまんこにちんちんを…
早く…！



死にたくはないからな…
この場所が消える前に、
逃げなきゃならな…

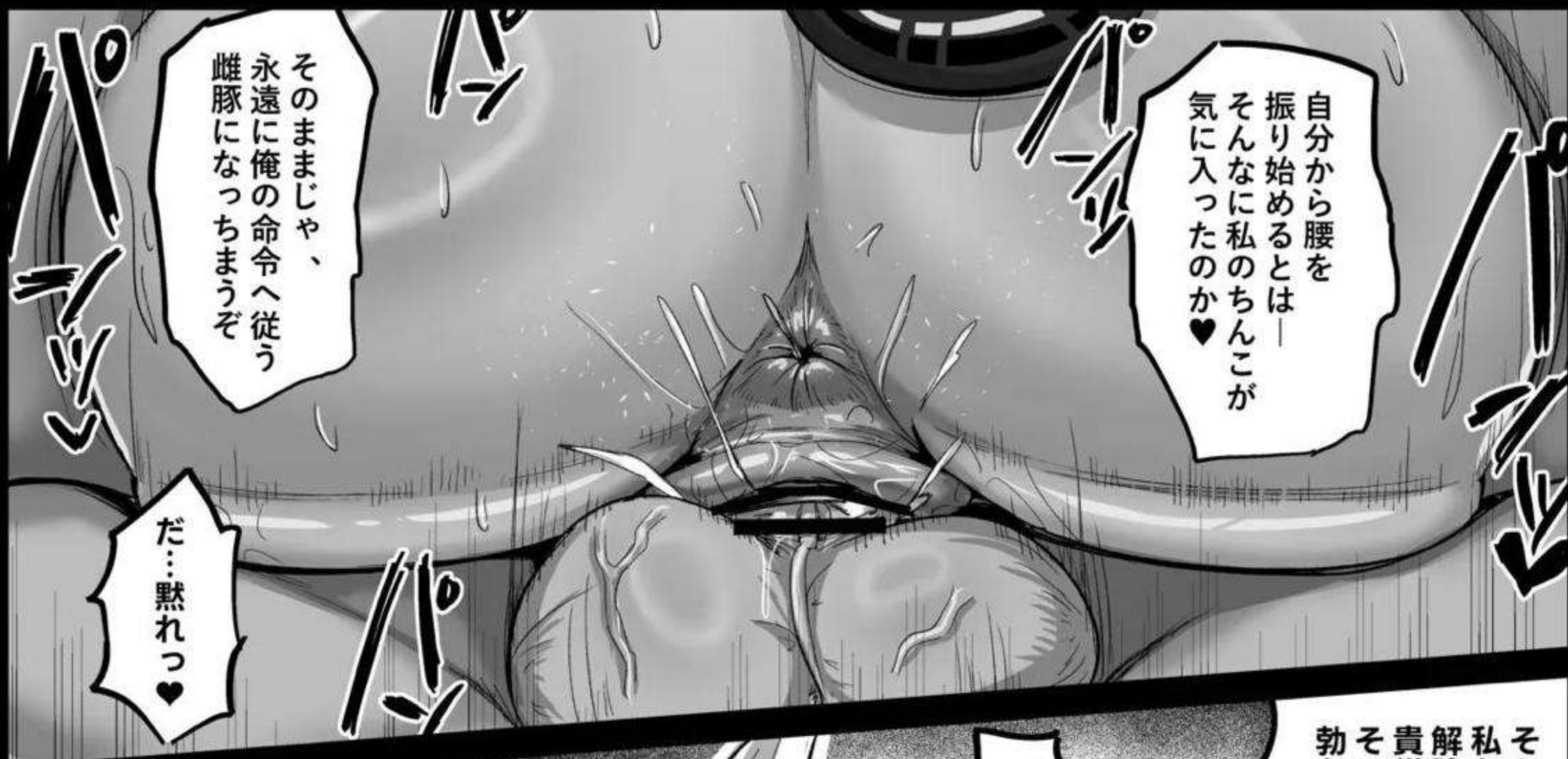
…ん？

はあ

はあ

はあ

ブヒッ—



自分から腰を
振り始めるとは—
そんなに私のちんこが
気に入ったのか♡

そのままじゃ、
永遠に俺の命令へ従う
雌豚になっちまうぞ

だ…黙れっ♡



そんな魔法くらい、
私ならすぐに—おっ♡
解除できるから…!!
貴様は黙って、
そのちんこでも
勃たせていろ…!!♡

ブヒッ—なるほどな
そういえば…
まだキスはしてなかったな
恋人同士みたいに、
濃厚なキスをしてみる♡

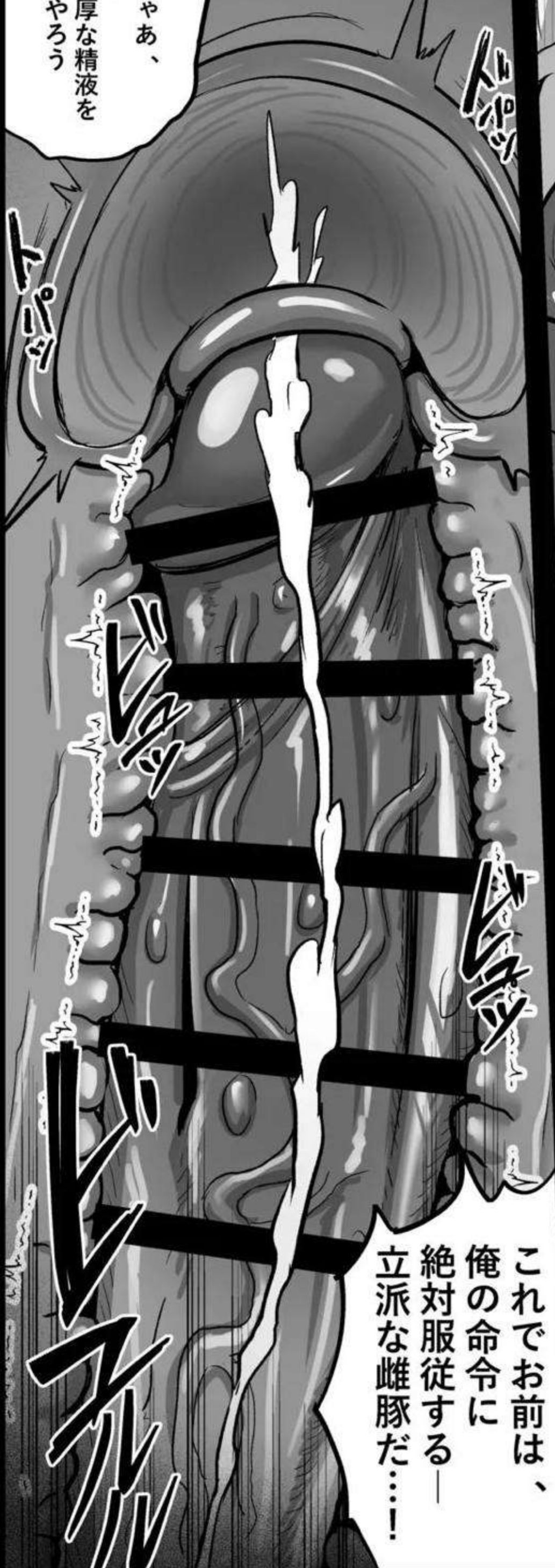
誰がお前なんかと
キスを…!!

そうか?
キスしてくれたら、
とびきり濃い精液を—
お前の子宮へ注いでやる
つもりだったんだがな…



ブヒッ—♡

ブヒッーそれじゃあ、
お望みどおり…
ラード特製の濃厚な精液を
たっぷり注いでやろう



これでお前は、
俺の命令に
絶対服従する—
立派な雌豚だ…！



んっ…

んっ…

んっ…

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



ブヒヒッー
これで、あの高貴な…
アスタロトも俺だけの
雌になったな

ビクッ

ビクッ

さて…次に従わせる
獲物でも探すとするか
ブヒヒッ♡

ぽんぽん

こんにちは、はじめまして。EXAbyteです

本来なら、これまで描いてきた「神羅万象」シリーズの第3弾をお届けするはずだったのですが…

第3弾の制作中、陶芸家が「この陶器じゃない！」と叫びながら作品を叩き割るようなイメージがふと頭をよぎり、

「このままじゃダメだ」と思ってしまったこと。そして何より、もう少しアスタロトを描きたいという気持ちもあり、思い切ってリブートすることにしました。

申し訳ありません。

とはいえ、今回のリブートをきっかけに、今度こそきちんとシリーズを続けていくつもりですので、どうかご容赦いただき、これからも温かく見守っていただければ幸いです。

それにしても、今年の夏の暑さ、マジでどうなってるんだ……



表紙案

発行 - 妄想ハンター

著者 - Exabyte

Mail - girinida3@gmail.com

発行日 - 2026/08/16



X(Twitter)



Pixiv

妄想ハンター